

ここまで進化 卒業アルバム新技術

写真選び、顔認証で省力化

児童の登場回数 AIがカウント

児童・生徒が学校を卒業していく時期となった。今も卒業アルバムは在学中の様子を記録にとどめ、振り返る貴重な品として、卒業生の手に残る。

ていくが、技術の進化も著しい。新しい技術を採用してどのようなアルバムが実現しているのか。各地の動きをまとめた。

卒業アルバムに載せた写真で、ある子は登場回数が多く、ある子は少ない。そんな事態を回避するために、これまで人手と時間を費やしてきたが、人工知能(AI)を使った顔認証システムで一気に省力化する動きがある。

その一つが千葉県柏市立手賀西小学校。本年度の児童数は177人で1学年1学級規模。児童数が多いとは言えないが、アルバムに掲載する写真の選定作業は、延々と時間を費やす単純作業を伴ってきた。

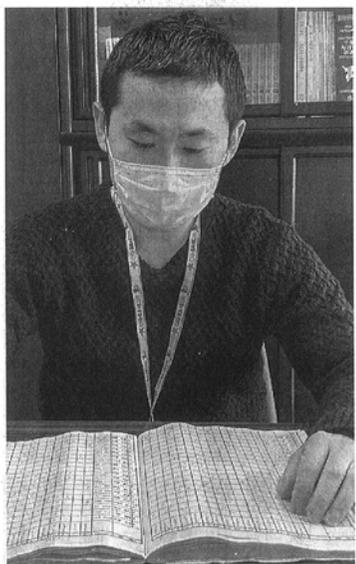
昨年3月に卒業した児童のアルバムがAIシステム活用の第1号となった。それ以前は、①掲載候補となった写真を選択②その中から卒業生それぞれが何回ずつ登場するか数える③児童の登場回数を一定の範囲に抑えて載せる写真を決める④という手順をたどった。

このうち、「②卒業生が何回ずつ登場するかを数える」が延々と時間を費やす単純作業だった。同小学校の場合、方眼紙のような表を作り、横軸に掲載候補の写真の番号、縦軸に卒業予定の児童の名前を記入。掲載候補写真に写っている児童のマスに丸印を付ける。

その後、丸印の数を児童ごとに数え、掲載候補写真全体の中で何回登場しているかを確認。その上で、候補写真を絞り込んでいた。

児童の保護者の中から選ばれた卒業対策委員に来校してもらい、一連の作業をこなしてきた。昨年度、6年生の学年主任と教務主任を務めていた東條正興主幹教諭は、普段から使っているスマートフォンが正確に顔を見分ける機能を持っ

ていることから、「あの技術を使えないはずはない」と考えて、写真から顔を読み取る仕組みがないか探し始めた。



間もなく、東京都内のIT関連企業によるモニター募集を知る。まさに、「②卒業生が何回ずつ登場するかを数える」を自動化するシステムを既に

整えていた。令和2年9月ごろのことだった。このシステムは、児童・生徒それぞれ1人ずつの写真を登録しておき、デジタルカメラで撮影した写真をアップロードすると、1人ずつ登録した写真とAIが照合する。その結果として、掲載候補写真の中に、児童・生徒それぞれが何回登場するかが表示できるようになる。

東條主幹教諭によると、マスクを着用している、眼鏡をかけるよう

になっても、おむね正しく認識する。1年生のときの写真と6年生の写真を比べても、児童の判別は、ほぼ正しかったという。

昨年度はコロナ禍の真ただ中。卒業対策委員の保護者は校外で作業する必要はなくなった。同小学校では本年度も、このシステムを使い、卒業アルバムを制作してきた。このシステムを開発したエグゼック(東京・目黒区)は、「アルバムスクラム」の名で、商品化している。主に、写真館向けの商品と位置付けている。料金は写真館が支払うため、学校側の負担はまちまちだという。

この取り組みは、文科省が昨年3月に公開した「全国の学校における働き方改革事例集」に収録された。以後、海外の日本人学校など、多くの学校から、同小学校に問い合わせが寄せられている。

NEWS インサイド



人工知能で写っている写真を読み取るシステムの画面。アルバムに掲載する候補となった写真の中に、どの児童・生徒が合計で何度出ているか表示される＝エグゼック社「アルバムスクラム」の紹介動画から